

## PRESS RELEASE

2025年2月10日  
株式会社 ispace**ispace、ルクセンブルク宇宙機関とドキュメンタリー動画を共同制作  
欧州初のマイクロローバー開発にまつわる第1話を公開！**

*TENACIOUS* ローバー開発および月面輸送のために ispace とルクセンブルク宇宙機関が  
共に取り組んだ日々を全4話に分けて順次公開予定

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）とルクセンブルク宇宙機関（以下 LSA）は本日、欧州で初めて開発された *TENACIOUS* ローバーにまつわるドキュメンタリー動画の公開を発表しましたのでお知らせいたします。*TENACIOUS* ローバーは、欧州法人である ispace EUROPE S.A.（以下 ispace EUROPE）が、拠点を置くルクセンブルクで初めて独自に設計、製造、および試験が行われた小型月面探査車で、RESILIENCE ランダーに搭載され月に向けて打ち上げられました。



TENACIOUSローバードキュメンタリー 第1話

HAKUTO-Rチャンネル  
チャンネル登録者数 1.15万人

42



共有

オフライン



全4話に分けて公開される本ドキュメンタリー動画には、*TENACIOUS* ローバー開発の舞台裏や関係者へのインタビューで構成されています。第1話では、LSAのCEOである Marc Serres氏と ispace EUROPE CEOの Julien Lamamyが、月面探査における官民連携の重要性について話します。今後は、ispace 以外にも、ルクセンブルク政府関係者や LSA、欧州宇宙資源イノベーションセンター（以下 ESRIC）関係者も登場予定です。

先日公開された第1話に続き、第2話以降も Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”（以下ミッション2）の期間中、毎月公開予定で、公式 Youtube や SNS、LSA ウェブサイトからも視聴可能です。

ここまで ispace は、ミッション2の Success 4 まで順調に達成し、現在 RESILIENCE ランダーは Success 5 に設定されている「月フライバイ」に向けて準備を進めています。月フライバイが成功すると、日本の民間企業として初の快挙となります。

#### ■ ispace EUROPE CEO Julien-Alexandre Lamamy のコメント

「ispace は LSA と長きに亘り非常に良好な関係を構築してきました。今回、ドキュメンタリー動画の公開を通じて、世界中の皆さまに TENACIOUS ローバー開発の舞台裏や、関係者の想いを届けられることを楽しみにしています。ミッション2の月フライバイ初挑戦や今後の着陸から目が離せません。」

#### ■ ルクセンブルク宇宙機関 副 CEO Mathias Link 氏のコメント

「ルクセンブルクにとって、大きなマイルストーン達成となったこのプロジェクトは、なぜ、どのようにして月面探査車の開発が実現したのかを示しています。ドキュメンタリー動画の公開は、ルクセンブルクの能力を示すことに役立つと共に、月を目指す TENACIOUS ローバーが人々にとってより身近な存在となるきっかけになるでしょう。」

ルクセンブルクに拠点を置く ispace EUROPE は、2017年3月にルクセンブルク政府の宇宙資源開発の商業化を支援する SpaceResources.lu イニシアチブとの協力協定に基づき設立され、以来、ルクセンブルク大公国を欧州における宇宙資源探査と利用のハブとすべく、LuxIMPULSE プログラムの一環として、ルクセンブルク宇宙機関との共同資金でマイクロローバーの開発を行っています。

ispace は、日・米・欧の3法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。2025年1月15日に日本法人が主導するミッション2の打ち上げを完了し、続いて2026年には米国法人が主導するミッション3を順次実行していく計画です。また、2027年には、現在日本で開発中のシリーズ3ランダー（仮称）を用いたミッション6を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション3およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

#### ■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの3拠点で活動し、現在約300名のスタッフが在籍。2010年に設立し、

Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った5チームのうちの1チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022年12月11日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション1のランダーの打ち上げを完了。ミッション2の打ち上げは2025年1月15日に完了し、続くミッション3は2026年<sup>1)</sup>、ミッション6は2027年に<sup>2)</sup>打ち上げを行う予定。

ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

---

<sup>1)</sup> 2024年11月時点の想定

<sup>2)</sup> 2024年11月時点の想定